

志賀自然教育研究施設年報

平成13(2001)年2月～平成14(2002)年1月

I 人 事

赤羽貞幸教授の施設長任期終了に伴う選挙が2月に行われ、後任に、別府 桂助教授が選出された（任期は平成13年4月1日から15年3月31日まで）。

II 概 況

文部科学省による教員養成大学・学部再編成のあおりを受け、本施設でも改組の動きがいよいよ本格化してきた。従来提案されてきた“志賀野外教育研究実践指導センター”への転換に関する概算要求は一度白紙に戻し、今年度開所した信州大学全学共同利用施設である“山地水環境教育研究センター”の一部門として取り込んでもらうように山地水環境教育研究センターへ申し入れをし、現在継続審議中である。一方で、信州大学全体の教育研究組織としては“山岳科学総合研究所”構想もあり、学部附属の諸施設が今後どのように組織換えや再編がなされるのかまだ不透明の部分が多い。しかし、こうした再編に乗り遅れないよう情報収集を行いながら、施設の発展改組へ向けて現在鋭意努力中である。一方で、信州大学事務局による施設の視察や、教育学部の古平事務長、野村同補佐による自然教育合宿研修の視察など、施設設備の現況や教育研究活動を事務局に広く知っていただく良い機会もあった。また、今年度は、例年通りの施設運営に加えて、平成7年より休講していた大学公開講座「郷土の自然をさぐる」を再開した。

カヤノ平ブナ原生林教育園では、木島平村からの林道が舗装整備されたことにより、各種団体のバスツアーや家族連れのおートキャンプなどで一般観光客が例年より多く訪れた。来シーズンは奥志賀林道からのアクセス道路も舗装されるため、さらに観光客が増える見込みである。園内では、昨年に引き続いて、姫路工業大学の江崎保男教授、長野県自然保護研究所の堀田昌伸研究員、大阪府立大学の石井 実教授、志賀施設の井田のグループが、様々な観察や調査を行った。

III 運 営 委 員 会

1. 第一回運営委員会：平成13年5月23日(水)（教育学部第一会議室）

(1)平成12年度事業報告、(2)平成12年度決算報告、(3)平成13年度事業計画案、(4)平成13年度当初予算案及び(5)その他、についてそれぞれ審議した。

まず、施設主任より平成12年度事業について報告があり、施設長が補足説明を行った。続いて柄澤経理係長から同年度決算報告についての報告があり、質疑応答の後、両案件とも原案通りそれぞれ承認された。

平成13年度事業計画案及び予算案について、最初に施設長より、平成13年度の学部予算全体がまだ不透明だが、施設の運営には例年通りの学部からの予算補助が欠かせないので、その旨総務・予算委員長に依頼書を出したこと、また、大学全体の予算が確定していないので不確定な部分もあるが、日常業務に支障が出ないようにするため、予算案の審議をしてほしい旨説明があった。その後、施設主任から事業案計画案について、経理係長より当初予算案の説明があった。

説明後、“予算削減下の状況を乗り切れるのかどうか”といった施設の将来に関わる質問や意見があり、施設長から施設の節約の現況について説明があり、古平事務長より大学における附属施設の見直しの現況に関する情報をいただいた後、両案件ともに承認された。

平成12年度の施設利用状況の説明の後、施設主任から5月12日(土)に東京学芸大で開催された国立大学環境教育関連施設協議会についての報告があった。また、事務長より、志賀施設の現状を見てもらうために、運営委員会を志賀施設で行う必要があるのではないかという意見をいただいたので、第二回運営委員会が志賀施設でできないか検討することにした。その後、施設の将来計画についての質問や、改組への取り組みの姿勢及

び進行状況について質問があったので、それらに対する説明を施設職員から行うとともに、多くの委員の方からご意見をいただいた。

2. 第二回運営委員会：平成12年9月28日(金) (志賀施設研修室)

(1)平成13年度の予算執行状況, (2)施設の現況と将来について, (3)その他, についてそれぞれ審議した後, 教育園内及びカヤノ平分園を視察した。

予算執行状況について, 施設長より, 7月の教授会で報告された施設予算配分額と学部補助額を合計しても, 昨年度より約46万円の減額となるため, 施設の管理運営が極めて厳しい状況にあるという説明がなされた。続いて, この緊縮予算のもとでどのように計画した業務を遂行したらよいか議論し, 研究業績の発行面などで何とか経費節減となるよう努力してみることにした。加えて, 消耗品などについてもできる限りの節約に努めるとともに, 学部長裁量経費などを獲得できるよう引き続き努力することとした。平成13年度事業遂行状況について, 施設長より, 今年度の“自然教育合宿研修”が無事終了したことが報告された。続いて, 施設主任より年度前半の事業が計画にもとづいて順調に進んでいることが報告された。

施設の現況と将来について, 最初に施設長が, 最近の施設の概算要求の成立過程やその意味について説明し, 人員の純増を求めるような要求は, 緊縮財政のもとでは実現性が低いので, 今までの概算要求を一度白紙に戻し, 新たな要求を立案したい旨提案を行った。具体的には, 学部附属の枠を離れ, 信州大学全体の“共同研究教育センター”への転換を目指したいという方向性が示された。事務長からも最近の概算要求の採択の傾向について説明があり, こうした提案や情報に基づき施設の将来について議論した。その結果, 全体の方向性については, 学部将来計画委員会の志賀施設改組検討委員会で話し合っていくことについても承認された。ただし, 施設の目的や従来の業績が活かされる方向での改組を望むとの意見が出され, そうした要望を示しながら具体的な作業に入っていくことにした。

その他, 施設発行の研究業績第39号への投稿依頼をして, 会議は終了とし, 昼食後, 資料館の雨漏り及びロックガーデンの整備状況, 取り付け道路の凍上状況を視察した。その後, 木島平村のカヤノ平へと移動し, ブナ原生林教育園内を施設主任の説明を聞きながら視察し, 説明版の腐朽状況を点検した。

〔運営委員〕任期：平成14年3月まで, 以下, いずれも敬省略。

〔言語〕谷本泰子, (社会科学)阿久津昌三, (理数科学)榊原保志, (生活科学)松岡英子, (芸術)上田秀洋, (スポーツ科学)渡辺隆一, (教育科学)高橋知音, (教育実践センター)上村恵美子, (施設長)別府 桂

〔事務局〕古平事務長, 野村同補佐, 柄澤経理係長, 東條用度係長, 下原管理係長, 塩入学務係長, 大月経理係員, 小林用度係員

〔施設職員〕(施設主任)井田秀行, (技官)春日基文

IV 研究と教育活動

1. 志賀実習

教育学部2年生全員が対象となる必修授業「自然教育」と教員養成課程合宿研修の合体した志賀実習を10班施設で受け入れ, 井田及び別府の2人分担で行った。日程は以下のとおり。

自然教育+教員養成課程合宿研修 (総数260名)

第1班：8月6日(月)～8日(水)	第2班：8月8日(水)～10日(金)
第3班：8月20日(月)～22日(水)	第4班：8月22日(水)～24日(金)
第5班：8月27日(月)～29日(水)	第6班：8月29日(水)～8月31日(金)
第7班：9月3日(月)～5日(水)	第8班：9月5日(水)～7日(金)
第9班：9月10日(月)～12日(水)	第10班：9月12日(水)～13日(木)

(第10班の養護学校教員養成課程は自然教育が必修でないため, 合宿研修のみの1泊2日)

2. 大学院教育学研究科授業

「生物学特論Ⅰ」前期2単位, 「生物学演習Ⅰ」前期2単位で開講 (別府 桂助教授)。

「生物学演習Ⅳ」前期2単位で開講 (渡辺隆一教授)。

3. 大学公開講座

講座名「郷土の自然をさぐる」

実施内容 第1日 6月10日(日) 信大志賀自然教育園内の自然観察(別府 桂助教授)

第2日 7月8日(日) カヤノ平ブナ林の自然観察(井田秀行助教授)

第3日 8月26日(日) 戸隠高原の自然観察(赤羽貞幸教授)

参加者 一般社会人15名。

4. 出版

研究業績38号(450部印刷)を3月に、自然便り「長池の四季」(400部印刷)を2回(6, 9月)発行した。

5. 大学関係の授業・実習

平成13年

5月26日 信州大学大学院教育学研究科生物学特論 I

6月23日 信州大学大学院教育学研究科生物学演習 I

7月25～27日 上越教育大学生物学実習

7月31日～8月1日 信州大学大学院教育学研究科生物学演習 IV

9月25～27日 信州大学理学部物質循環学科野外実習

平成14年

1月8日 埼玉大学教育学部雪氷観察実習

6. 研修会・観察会支援活動 *別府施設長担当分, () 内は実施場所。

平成13年

2月4日 長野県自然保護研究所“自然ふれあい講座”講師(飯綱高原スキー場)

3月17日 やまぼうし自然学校“森林インストラクター養成講座”講師(上田森林センター)

4月29日 環境省“自然にふれあうみどりの日の集い”講師(信大志賀自然教育園)

5月20日 志賀高原自然保護センター“夏期観察会リーダー研修会”講師(志賀高原)

6月25日 山ノ内中学校“環境学習”現地指導(信大志賀自然教育園)

6月7日 真田町外一市一町共有財産組合“ブナ林の保全方法等現地検討会”現地指導(真田町大洞)

7月7日 長野県環境自然保護課“自然観察インストラクター研修会”講師(志賀高原)

7月9日 東京都目黒星美学園小学校林間学校講師(信大志賀自然教育園)

7月10日 須坂看護学校“自然観察”講師(信大志賀自然教育園)

7月16日 *埼玉大学教育学部附属中学校林間学校講師(信大志賀自然教育園)

7月17日 お茶の水大学附属中学校林間学校講師(信大志賀自然教育園)

7月21日 埼玉県立大谷口中学校林間学校講師(志賀高原)

7月25日 調布中学校林間学校講師(信大志賀自然教育園)

7月27日 *静岡県常葉学園教職員研修講師(信大志賀自然教育園)

7月28日 志賀高原自然教室講師(信大志賀自然教育園)

7月30日 *長野県総合教育センター教職員講習“初夏の自然観察”講師(信大志賀自然教育園)

9月20日 須坂園芸高校教員研修講師(信大志賀自然教育園)

10月10日 上田市塩田公民館“塩田レディース講座志賀高原自然散策”講師(信大志賀自然教育園)

10月14日 「長池の会」“自然観察会”講師(菅平高原)

V 園内整備

例年通り、志賀自然教育園内及びカヤノ平分園内の自然観察路の落ち葉掃除、側溝整備、ササ・ススキ刈り、階段整備を5月から10月まで行った。同時にロックガーデンの植物への名札つけなどの作業も随時行った。7月には、自然観察路の階段修理に中学生ボランティアを受け入れた。

今年は、夏期に雨が多く、木場湿原と長池が氾濫して木道が水没したために、一時的に通行不可となった。特に長池湿原周辺では8月下旬から9月上旬にかけて水が引かなかつたため、一般入場者だけでなく、学生実習にも影響が及んだ。

VI 平成12年度の志賀施設の利用状況

(1) 資料館入館者の集計表

表1 来館団体の種類

	県 外		県 内		計	
	団体数(%)	人 数(%)	団体数(%)	人 数(%)	団体数(%)	人 数(%)
小 学 校	5(9.6)	334(6.9)	1(4.3)	42(5.7)	6(8.0)	376(6.7)
中 学 校	5(9.6)	1,425(29.4)	1(4.3)	215(29.1)	6(8.0)	1,640(29.4)
高 等 学 校	4(7.7)	1,112(23.0)	1(4.3)	40(5.4)	5(6.7)	1,152(20.6)
大 学	3(5.8)	52(1.1)	1(4.3)	18(2.4)	4(5.3)	70(1.3)
一 般	35(67.3)	1,922(39.7)	19(82.6)	423(57.3)	54(72.0)	2,345(42.0)
計	52(100.0)	4,845(100.0)	23(100.0)	738(100.0)	75(100.0)	5,583(100.0)

表2 団体の県内外の比率(%)

団体の種類	小 学 校	中 学 校	高等学校	大 学	一 般
県 内	16.6	16.6	20.0	25.0	35.1
県 外	83.3	83.3	80.0	75.0	64.8

表3 月別参観者数

月	個 人 (%)	団 体		計 (%)
		団 体 数 (%)	人 数 (%)	
5 月	111(4.7)	4(5.3)	162(2.9)	273(3.4)
6 月	160(6.8)	6(8.0)	246(4.4)	406(5.1)
7 月	512(21.8)	23(30.7)	2,339(41.9)	2,851(36.0)
8 月	1,241(52.9)	35(46.7)	2,636(47.2)	3,877(48.9)
9 月	165(7.0)	4(5.3)	128(2.3)	293(3.7)
10 月	155(6.6)	3(4.0)	72(1.3)	227(2.9)
11 月	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
計	2,344(100.0)	75(100.0)	5,583(100.0)	7,927(100.0)

(2) 志賀施設月別宿泊利用人数

区 分	年・月	12年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13年	2月	3月	計
		4月									1月			
利 用 人 数	学 内 合宿研修等	0 0	0 0	3 0	0 0	0 228	0 134	0 0	0 0	0 0	0 0	0 23	3 12	6 397
	学 外	0	3	10	21	15	0	0	0	5	14	22	0	90
	計	0	3	13	21	243	134	0	0	5	14	45	15	(425) 493
宿 泊 延 人 数	学 内 合宿研修等	0 0	0 0	3 0	0 0	0 419	0 244	0 0	0 0	0 0	0 0	0 30	3 24	6 717
	学 外	0	6	10	42	30	0	0	0	15	14	37	0	154
	計	0	6	13	42	449	244	0	0	15	14	67	27	(811) 877

()内は平成11年度の数